

包括的生徒指導(MLA) に基づく研修会

～安心して学ぶことができる学習集団づくり～

1 はじめに

岩見沢市は、北海道の中央部に位置し、札幌市からJRで約30分、新千歳空港からも約60分とアクセスが良いまちです。また、広大な田園風景が広がる農業の盛んな地域であり、豊かな自然に恵まれています。その広大な土地や自然豊かな市内には、小学校が13校、中学校が8校、義務教育学校が1校、高等学校が3校、高等養護学校が1校、国立大学が1校設置されており、およそ7,000人の児童生徒、学生が学んでいます。

令和8年度、岩見沢市教育委員会は～キミがHERO～を合言葉とし、「生きがいと希望の風が薫る教育のまち岩見沢」を教育行政方針に掲げ、子供を主人公とした学びを自分事とする学校教育の推進を進めています。

～キミがHERO～の合言葉には、教育に携わる者全員が主人公であるという意味が込められ、学習をする児童生徒だけでなく、児童生徒に関わる教職員、学校そのものが主人公となって教育を進めようとする決意を表しています。

2 ピア・サポートとは

岩見沢市教育委員会では～キミがHERO～の実現のため、4つのプロジェクトを作り、実践を行っています。その1つが、ピア・サポートです。

ピア・サポートは、ピア（仲間・同僚）とサポート（支援）

からなる、仲間同士で相互に支え合う活動として、思いやりを行動で示すことができる人間を育て、思いやりのある学校風土・コミュニティを創造するという目的のもと、全国の学校で実践が行われています。

本市では、平成27年度の教育行政方針に「ピア・サポート」の推進を明記し、平成29年度からは全市展開に向けて、「ピア・サポートプログラム」のトレーニング内容の指導案を作成し、市教委職員による巡回指導による支援を行ってきました。

また、令和元年度からは、市教委職員を講師として、定期的な研修会を実施し、毎年約50名の希望する教職員が参加しました。

令和5年度には、「ピア・サポート」の取組について、市内の各学校が自走する体制の構築を目指し、広島大学名誉教授 栗原 慎二氏と下関市立大学教授 中林 浩子氏を岩見沢市に招き、全教職員を対象に講演会を行いました。

3 岩見沢型ピア・サポートとしてマルチレベルアプローチ(包括的生徒指導)を導入

(1) 研修会を開催

令和6年度からは、子供たちが安心して学ぶことができる学習集団づくりを目的として、マルチレベルアプローチを導入するため、3年間の研修を開始しました。マルチレベルアプローチは、日本版包括的生徒指導として栗原氏が提唱しています。岩見沢市がこれまで取り組んできたピア・サポートに加え、社会性と情動の学習

(SEL) やポジティブな行動介入と支援 (PBIS)、協同学習の実践を取り入れながら、学業的発達、キャリア的発達、個人的・社会的発達といった他領域にわたる発達を促進します。

「個が育つ集団をつくる」というマルチレベルアプローチを、本市が目指す子供たちが安心して学ぶことができる学習集団づくりの方法として実践する。本市ではこれを「岩見沢型ピア・サポート」として取り組んでいます。研修は、栗原氏と中林氏を講師に迎え、年間10日間（60時間）を3期に分けて実施し、理論や実践について市内各校の教員が学びを続けています。また、第I期の研修に合わせて学校コンサルティングを実施し、各校の実践について実際の生徒の様子も観察しながら、改善に向けてご助言・ご指導を受けています。

4 研修会における工夫

① 研修会の運営方法への工夫

本研修会は3年計画での実施としていたことから、当初は自校での勤務年数が3年未満の教員に限定し、その教員が3年間参加することにしました。

また、令和7年度からは、受講者の拡大を図ったことから、集合とオンライン配信のハイブリッド開催にしたことに加え、研修の見直しや参加できなかった教員向けにオンデマンド動画配信を始めました。

② 研修会に実践発表を多く取り入れる

本研修会では、各校の実践発表を行う機会を設けています。その意図は3点あります。

1点目は、各校の実践について、講師から指導・助言を受けることで、自校の実践が正しい方向に向かっているか確認することです。

2点目は、受け身ではなく当事者意識をもって参加することです。

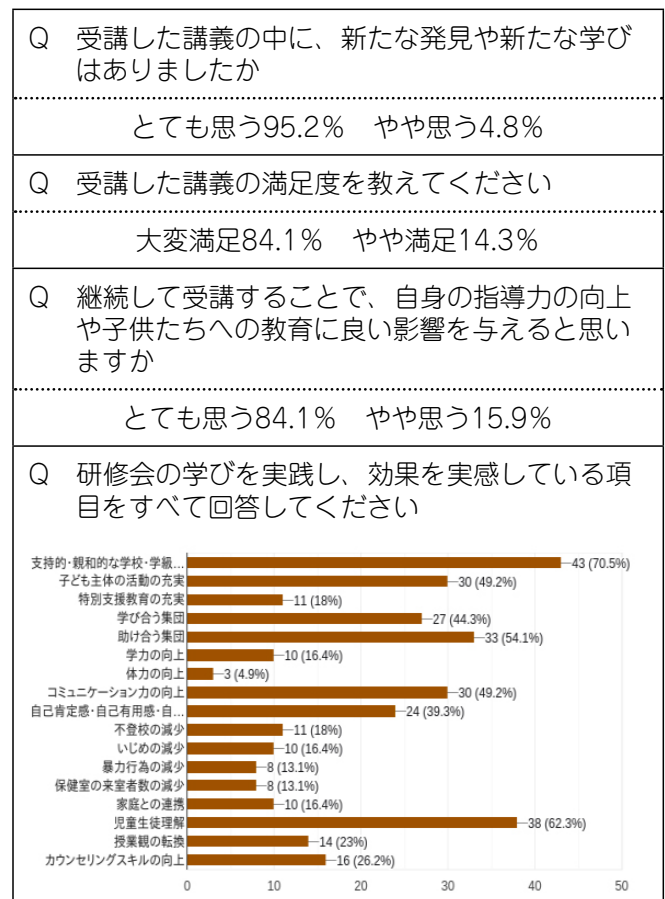
3点目は、互いに切磋琢磨できる環境の構築です。

他校の実践を聞くことで、自校の取組の改善点を見出し、好事例を真似することを狙っています。

③ 管理職の悉皆研修

推進リーダーが学校を動かすためには、管理職の理解と納得が不可欠です。推進リーダーと管理職が膝を突き合わせて協議を行う場面を設け、学びを即時フィードバックできる体制を狙いました。

これらの取組を含めたことにより、事業への満足度は大変高くなりました。その一例として、令和7年度第I期研修における受講者アンケート結果を下記に示します。



5 研修会以外における工夫

(1) 岩見沢型ピア・サポート研究部会の設置

岩見沢市立教育研究所では、これまで4部会(教科等、

外国語科、道徳科、情報)を設置し、年間を通じた調査・研究を行ってきました。この4部会に加え、令和7年度からは、「岩見沢型ピア・サポート研究部会」を設置しました。主な役割は、研修会の学びの還元と教職員への指導・助言とし、情報の集約と発信、師範授業の公開、研修会の実施、座談会を実施しました。



(2) 授業時数特例校制度の活用

本市では、令和7年度から授業時数特例校制度(文部科学省)を申請し、現在は、研究開発学校を除く、市内のすべての学校が、この制度を活用した教育課程を編成しております。

その中で、これまで学級活動で取り入れてきたピア・サポートプログラム等の取組を充実しています。

6 ピア・サポートの成果

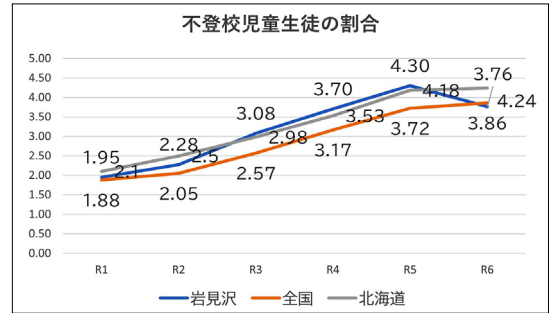
ピア・サポートの成果は、様々な調査等によって明らかとなりました。

(1) 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

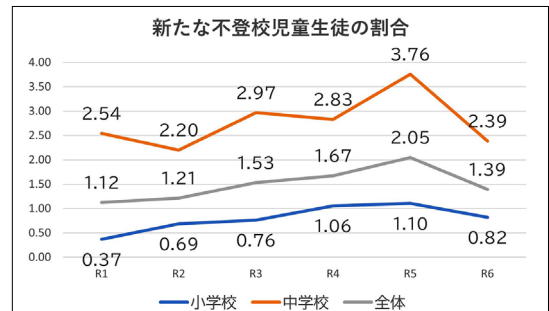
本調査における不登校児童生徒数の割合において、

令和9年度までに3.00%以下を指標としています。

これまで、本市における不登校児童生徒の割合は、毎年、増加傾向かつ北海道や全国を上回る傾向にありましたが、令和6年度から、下降するとともに、北海道・全国平均を下回りました。

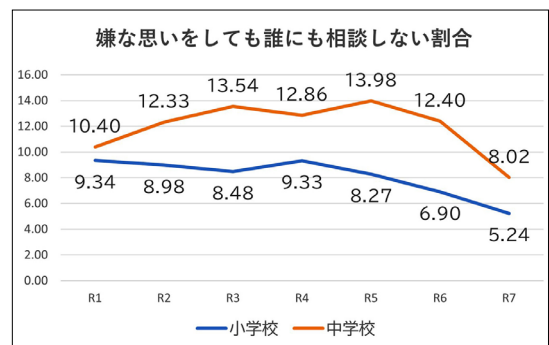


さらに、令和9年度までに、その年度内に新たに不登校となった児童生徒の割合を1.00%以下とすることを指標としています。



これまで、新たに不登校となった児童生徒の割合は全体的に上昇傾向にありましたが、令和6年度から下降しました。特に中学校において大きく下降しました。

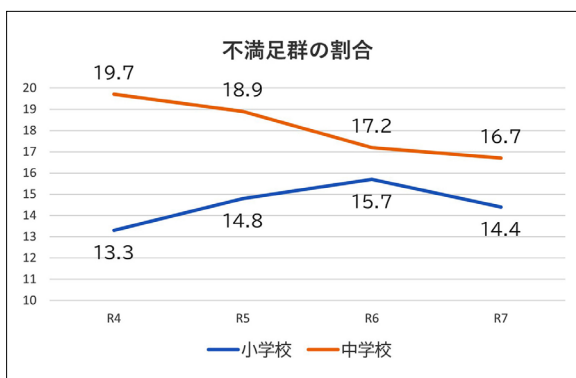
(2) いじめの把握のためのアンケート調査(第2回調査)より



本調査における「嫌な思いをしたときに誰に相談しますか」という質問について、「誰にも相談しない」と回答した児童生徒の割合を令和9年度の第2回の調査までに1.00%以下を指標としています。

これまで、「誰にも相談しない」と回答していた児童生徒の割合は小中学校ともに10%前後で横ばいに推移していましたが、令和6年度からは下降しました。

(3) 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」より



本調査の学級不満足群の割合において、令和10年度までに10.0%以下を指標としています。

ここ数年は、小学校で上昇傾向にありましたが、令和7年度から下降してきました。

※ Q-Uは毎年6月に調査しているため、令和6年度の成果はR7に反映されます。

学習集団の形成のためには、子供たちが安心できる環境が必要です。そのために、本市ではピア・サポートを通じて、他者を思いやる行動ができる児童生徒の育成を図っています。また、思いやりを育むことと同時に、コミュニケーションスキルなどの人との関わり方を身に付けさせることによって、仲間と協力して取り組むことができるようにしています。このような取組により、人と関わることや課題を解決することができるようになり、不登校生徒数の減少や、学級不満足群の割合減少につながったと考えられます。

7 令和8年度の取組

(1) 岩見沢型ピア・サポートイノベーターの指名

令和8年度からは、研修会や研究協議に参加し、本校で岩見沢型ピア・サポートを積極的に推進する教員を「岩見沢型ピア・サポートイノベーター」に任命し、推進する立場であることに責任感を持てるようにしました。



また、すべての学校が2年に1回、岩見沢型ピア・サポートに関する授業公開とその後の座談会を開催します。

(2) 参加対象への変更

本年度は本研修会の最終年度となることから、本研修での学びを本校に落とし込み、自走する体制の構築が求められます。

このことから、本研修の参加者について、次のような工夫いたしました（番号は優先順位）。

- ① 各校の推進リーダー教員
- ② 今年度、本市に着任した教員
- ③ 次の推進リーダー教員
- ④ 管理職

これまでの学びが途絶えることなく、脈々と引き継がれることを大切にしています。

(3) 改善の視点を磨くための模擬授業の実施

研修の中で、10分程度の模擬授業を行い、講師の助言のもと改善の視点を身に付けるために行います。

8 おわりに

すべての子供たちが、自分らしさを発揮し、よりよく学ぶためには、互いに認め合い、支え合える学校の風土が不可欠です。そのため、すべての子供たちにとって、温かく安心できる人間関係づくりを通して「支持的・親和的な学習集団」「個を育てる共同体」を構築することが大切と考え、岩見沢市では、心理的安全性が確保された学習集団の育成を本気で目指しています。

https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/shidoshitsu/gakko_kyoiku/1/14799.html